

海外の話題

この 10 年、これからの 10 年

農林中央金庫 ニューヨーク支店長 中村 和人

この秋、アメリカは2001年の9.11同時多発テロから10年の節目を迎えた。9月11日当日は、全米各地で様々な追悼イベントが開催されたが、再開がが続いているNYのテロ現場「グランド・ゼロ」でも、現職の大統領としては初めてとなるオバマ大統領夫妻や、ブッシュ前大統領夫妻も参加して追悼式典が行われた。またこの日は、恒久的な追悼施設である公園部分が遺族に限って初めて公開された。そこには、テロで崩壊したワールド・トレード・センターの2棟の高層ビルがあった場所に四方から滝が流れ込む巨大な人工池が2つ設けられ、その周りを、同時テロと1993年の同ビル爆破事件で犠牲になられた方々2,983名の名前が刻まれた石碑が囲んでいる。

この10年間、NY市では遺族の心情に配慮して追悼式典での政治的なスピーチを一切排除し、要人ゲストも詩の朗読のみだったそうだが、今回はオバマ大統領が旧約聖書の一節を、そしてブッシュ前大統領は、リンカーン大統領が南北戦争で5人の息子を亡くした夫人に宛てた手紙を朗読した。同時テロ直後のアメリカは、国民がまさに一つになり「テロに対する世界的な戦争」を標榜するブッシュ前大統領を支持して、アフガン戦争とサダム・フセイン政権の打倒を目指したイラク戦争に矢継ぎ早に踏み切っていた。この2つの戦争の膨大な戦費が、現在に繋がる米国の財政赤字拡大を招いた大きな要因のひとつであることは言うまでもないだろう。

当日のNew York Times紙の特集記事の欄外に何のコメントも付されず、この10年間の数字だけが掲げられていたので幾つか紹介したい。「6,204」イラク・アフガニスタンでの米兵の死者。「2,300」アメリカ人建設作業員の死者。「18,678」現地治安部隊兵士の死者。「13,065」9.11に関係して喘息や呼吸器疾患を患った人（最低でも）。「10,320」9.11に関連してPTSD（心的外傷後ストレス障害）やその他の精神的な障害を起こした人（最低でも）。そして何ともショックだったのは、「102,339」イラク民間人の死者（最低でも）である。

今年5月初め、ウサマ・ビンラディン容疑者が米軍特殊部隊によって殺害され、NYでも多くの若者が夜遅くまで氣勢をあげていて、改めてこの国が戦争を遂行している国なのだと考えさせられたが、一方で「アラブの春」の大きなうねりや、8月のリビアでのカダフィ政権の崩壊過程を見ていると、この「テロとの戦争」が必要とは言いきれない大きな犠牲まで強いて来たと考えて仕方がない。その経済的負担は、同じ特集記事からの引用で恐縮だが、直接の戦費だけで1兆2,050億ドル（約96兆円）、兵士への補償や恩給、治安部隊経費等々の関連費用を加えると1兆6,490億ドル（約132兆円）。また、アメリカに訪問された方なら誰もが経験する空港警備などの国内での対テロ安全対策関連費用で5,890億ドル（約47兆円）等々と試算されている。

専門家では無いので「この10年」を検証しようという大それた考えは無いが、オバマ大統領はワシントンでの追悼式典では、「この10年で、戦争や不況、政治的对立など国民にとって大きな変化があったが、平等と自由というアメリカの信念は不変であり、その信念は試練を経て強まった。」と語った。その上で、イラクとアフガニスタンに延べ200万人が出兵し対テロ戦争の最前線で犠牲を払った米軍兵士やその家族に敬意を評しつつも、「兵士やその家族は栄光に満ちているが、戦争そのものはそうではない。アメリカの強さは、戦争の10年から平和の未来へと進むことで生まれる。」と語り掛けた。軍の最高司令官である大統領の発言としては異例だと思うが、そこには長い消耗戦で疲れ切った大国の姿が垣間見える。今、アメリカ国内では、中国が衰退するアメリカを凌ぐ日が来るのかといった議論が盛んである。その答えは、「これからの10年」の先にあるかもしれない。

(2011年10月6日)